2001.12 01.12.12 7:16 PM ページ 1

セブンスデーアドベンチスト教会
SDA アドベンチスト はらじゅく
December 12

「終末の兆候と沈黙の神」

ADRAジャパン支部長　塚本　俊也

現在、日本のＩＴ時ＩＴ器賛手術の医療チームのコーディネートのため、ネパールに来ています。出発前までは、沈静化していた毛沢東派の共産党ゲリラが活動を始め、ネパールの東西の山間部では、政府側とゲリラ側の交戦で200名以上が犠牲になっています。しかし、今のところ、医療チームの活動に支障が出るような状態ではなく、順調にプロジェクトは進んでいます。

さて、最近、特にアフリカ、中南米、そして、アジア各地の途上国では、因因対策の遅れから、住民の不満が爆発し、おまけに政府の不正や一部の特権階級の優遇などに対する不満から内乱が起こっています。近頃、「テロ」という言葉が頻繁に使われるようになりましたが、決して最近の出来事ではありません。人類の歴史は、人間同士の争いによって歪められてきたといっても過言でないかもしれません。

聖書の中でもテロ的な行為がたくさん紹介されています。旧約聖書の中には、イスラエルおいて、民族と民族の争いが神の名の下に行われ、神がともにおられたがゆえに勝利に導かれたなど、奇跡的な神のお導きが賞賛されています。しかし、神から目を離し、自分の勝利に目をやるときに失敗を犯してしまうというようなストーリーがたくさん紹介されています。

「アラー」と「神」

現在のアフガニスタンの戦いでは、タリバンは、アラーの名の下に戦い、そして、アメリカは神の御名のもとに戦っているのです。この「アラー」と「神」は、もともと同じ旧約聖書でいうところのエホバをあらわし、表現が違う神様をそれぞれ礼拝し、戦っているのです。この現実を、神は一体全体どのようにごらんになっているのでしょうか？　神は、この戦いを通して何を私たちに教えようとしておられるのでしょうか？　そして、私たちは、この出来事をどのように考え、理解していけばよいのでしょうか？

世界は、２世紀を迎えましたが、９月１３日を境に、大きく世界は分裂しようとしています。アメリカは、人類はこのどちらかにつかなければならないというメッセージを流しています。しかし、私たちは、今こそ、真の神の御声を聞かなければなりません。今、キリスト者として、どうあるべきかを問われているのではないでしょうか。マザー・テレサは、「愛のある所に紛争は起こらない」と言っています。私たちの周りの小さないざこざも、この言葉に原因しているのではないでしょうか。キリストにある本当の平和とは何か、そして、愛とは、キリストが十字架上で死んでくださった以上の愛はないのです。その愛を私たちは、すでに知っているのです。ここネパールでもあだにお祭には、神々にいけにえをささげます。ネパール中がいけにえの獣の血で染まってしまうお祭もあります。旧約の人々と同じような犠牲物をでも必要としているのです。山間部のヒンズー教徒は、毎週土曜日に動物を祭壇に捧げます。このお祭りをネパールで見るたびに、この国にキリストが必要とされていることを感じます。　（ ／ ）

2001.12 01.12.12 7:16 PM ページ 2

（ヽ）私たちクリスチャンは、キリストを知っています。キリストは、すでに、私の罪のために十字架の上で血を流し、生きた聖なるささげものとなってくださったからです。全世界に向くキリストの福音が述べ伝えられなければなりません。アドベンチストは、アフガニスタン問題で、タリバン降伏などを期待するより、この終末時代をどのように迎え、今そのために私たちは、何をしなければならないかを早急に考えるときではないでしょうか？「あなたがたもゆるし合いなさい。これらいっさいのものの上に、愛を加えなさい。」（一部抜粋『コロサイ』3:12−17）

「祈　り」

遠藤　香

私はつい最近まで、祈りの方法が分かっていませんでした。知っていたのは、「天の神様…」で始まって、「…の御名によって、アーメン」で終わることだけでした。

教会に来て間もない頃、「お祈りってどうやるの？」と、周りにいる人に聞いてみました。すると、「どんな祈りでもOK！」とか、「親しい友達に話すように」、と教えてくれました。少しは気が楽になったものの、納得したわけではありませんでした。

人のお祈りを聞いて、「なんてすばらしいお祈りなんだろう！自分もあんなふうに祈れたら…！」と思って、いざ寝る前に祈ってみると、気持ちが神様の方からずれて、気がついたら朝になっていることもありました。

でも、そんな横着者の私の祈りにも、神様はちゃんと答えて下さって、少しずつですがお祈りがどんなものなのか分かりかけてきました。

そして、I HI I HIOTICOは追講演会で、クリスチャン・マーチン先生から、もう一つ大切な秘訣を教わりました。それは神様を讃美するということでした。「なーんだ、そんなこと？」と思われるかもしれませんが、これこそ私の祈りに欠けていたものなのです。

祈りの始めに、神様のすばらしさ、深い愛、宇宙の創造、などを讃美すると、不思議と「神様は全知全能なんだ、お出来にならないことはないんだ！」と信じて祈れるようになりました。

今日も主を讃美します！

頂戴

田村　尚子

これが天地創造の由来である。主なる神が地と天を造られたとき、地上にはまだ野の木も、野の草も生えていなかった。主なる神が地上に雨を降らせてはいなかったからである。また、土を耕す人もいなかった。しかし、水が地下から湧き出て、地の面　をすべて潤した。主なる神は土の塵で人を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。（創世記2:4−7）

初めに言葉があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。（ヨハネ1:1−3）

神の言葉によってこの世のすべてが創られ、人が塵によって形づくられ、息を吹き入れられて初めて生きる者となったというくだりは、何度読んでも厳粛な気持ちにさせられます。しかも、ご自分に似せて創ったと書かれています。この偉大なる神の愛を思う時、いつも、もっと謙虚にもっと真剣に生きなければ申し訳ないと反省しています。

2001.12 01.12.12 7:16 PM ページ 3

安息日学校（11月24日）「聖餐」総上教師

「最後の『勝え』の手に　」

小林　道雄

SDAの中央教会にお導き頂いて、はや十年余りの月日が経ちました。私も今年８３歳になり、心身共に衰えを感じる日々であります。老いるということは、若い時には想像もしなかった多くのマイナス面があることは否めません。しかし、心身ともに衰え、全く無力となり、神に頼るほかに生きるすべがなくなってくること、最期の如く神に頼らなければ生きてゆけないような状態に追い込まれて ゆくことは、今ので神様にお目にかかるための「勝え」の時であるのかも知れないと思っています。「イザヤ書」46章4節に、

わたしは、あなたがたの年老いるまで変わらず、白髪になるまで、あなたがたを持ち運ぶ。

わたしは造ったゆえ、必ず担い、持ち運び、かつ救う。

とあります。この言葉は老いた者にとっての光であります。聖書の中には、素晴らしい言葉が宝石のようにちりばめられていて、毎朝聖書を読む時を与えられていることは、大きな恵みです。

毎週、安息日礼拝では、賛歌と共に神を讃美することが出来、木曜日のバイブルクラスに参加させて頂けることは、私の生活の大きな柱です。頭も大分減くなり、先生のお話をよく理解出来ぬことも多く、皆様にご迷惑をかけているのではないかと申し訳なく思いますが、最後までおさえ下さいますようお願いします。新約聖書「テサロニケ人への第一の手紙」の5章16－17節に、

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について感謝しなさい。

という有名な言葉があります。パウロのこの言葉を日々の過しるべとして、一日一日を大切に生きてゆきたいと願っています。

（この日小林さんは、教師研究「田谷教室クラス」の特別講義担メンバーとして、後藤先生・柳沼長老とトリオで、聖餐の代表（うるおしの会長）をアルバラで担当され、続いて声高らかにこの証言をされました。終わるや所々感望所には、賛好すしてあちこちから「アーメン」という大きな声が一、素朴なひとときでした。特に感謝して、原稿を掲載させていただいた次第です。編集部）

原宿彩彩

お♥め♥で♥と♥う

♥２年３月、「音楽に行ったらお嬢さんが見つかるように祈っていますよ」と、たくさんの教会員の方々に送り出された藤森大輔先生。神様はその祈りに答えて下さり、１０月１８日、藤森先生と資道子さんの結婚式がありました。「音楽と花」に満ちた式で、あんなにうれしそうな藤森先生の顔は見たことがありません。これから音楽は寒い季節になりますが、道子さんがいて下さるので、藤森先生も私達もホッと安心ですね。末永くお幸せに！　（武井）

♥１０月１８日（日）、三本牧子さんが、千先勉先生の司式のもと、高校時代の同級生若月正樹さんと結婚されました。厳かな雰囲気と溢れてくる涙に、出席者までが神聖な気持ちになるような式でした。バッハの『主よ、人の望みの喜びよ』の慈のヒッタリ合ったピアノ連弾もあり、正樹さんは「この連弾のように二人でハーモニーをつくっていきたい」と挨拶。素敵なハーモニーを、そして、連弾の指揮者は神様であることを祈っております。

恵美業務部長・道句

二人だけで『結婚』を味はえり
春浅きリハビリに祈る子の『結婚』
夕陽土の良く見えて『安息』日
リハビリの進捗を見て『安息』伸ぶ
検診のたんの吸ひ痛苦の盛り

三年前のこの日、一人だけで、教会に出かけました。（文子）

三年余りの間

2001.12 01.12.12 7:16 PM ページ 4

牧師によるバイブル豆事典

「誕生時の塩と布の祝福」

聖書時代には、新生児は、水で洗われてから、その身を塩でこすってもらいました。それから、純金を振えて延べ、また純粋を投入ねりとして、幅１−３センチ、長さ５−６メートルほどの亜麻布か木綿の布にくるまれ、布はあごの下や、ひたいの上まで覆いました。（このしきたりは、「エゼキエル書」16:4、「ルカ」2:7,12で言及されていますが、イエスの生誕に関わることがらとして、引き合いに出しました）　水は、地と他の物質から成る身体を清めるために用いられ、塩は一種の消毒剤として使われ、赤子の肌を丈夫にするものと信じられていました。塩はまた、清めの象徴として、また食物を保存するために、用いられました。ですから、塩でこするという行為には、そうしたさまざまな効き目が現れるようにとの願いも多分込められていたのでしょう。そして、その身を包む長い布のおかげで、赤子は動き回りすぎるという危険を冒さずに済み、保護をすることがなかったのです。

イエスは「あなたがたは地の塩である」と言われました（「マルコ」9:50）。私たちはクリスチャンとして地の塩となるとき、人を洗い、清め、保つ影響力を及ぼすのです。また、あの新生児のように、神の愛と恵みでしっかりとくるまれていなければなりません。真理の道は狭いですが（「マタイ」7:13,14）、それは、当時のおちゃんがくるまれていたように、私たちのこの罪を犯しやすい傾向をも制限します。このような制限があればこそ、私たちは安全に自由に成長することができます。私たちも新たに生まれたなら、塩と布の祝福を受けるでしょう。イエスは「人は新しく生まれなければ神の国を見ることはできない」（ヨハ3:3）と言われました。　（東京中央教会国際部牧師　マーク・デュアート）

12月のスケジュール

12／　1(土)[説]ジェイロン・リー牧師
　　各部役員会
　／　2(日) 原宿バロックコンサート19:00開演
　／　8(土) [説]武井今日子副牧師＆子供のお話
　　アドベンチストはちじゅく＆通販発送
　　小羊クラブ14:00～集会室
　／　9(日)　PFC御剣部会（渋谷駅周辺にて）
／15(土) [説]板東洋三郎牧師　バプテスマ式
／16(日) 英語学校クリスマスバンケット16:00～集会室
／22(土) クリスマス礼拝
　　[説]板東洋三郎牧師＆子供のお話
　　子供クリスマス会15:00～集会室
　　ビーハイブ・クリスマスライヴ　17:00～会堂
／24(月) キャロルとメッセージのタベ19:00～会堂
／29(土) [説]マーク・デュアート牧師　洗足・聖餐式
1／　1(火) 元日礼拝10:30～

◆教会のホームページを開設しています。
http://www.sda.gr.jp

ＥＧ簡だより

誰もが平和を願い、希望を夢みた。２世紀に、それぞれ、誰もが目を、耳を疑った。６千人もの命が、富が、象徴が一瞬にして消え失せ、新しい戦争が始まった。家に祭壇を入れるところ、聖空の下で祭壇する人がいる。温かいご飯を食べるころ、空腹に耐える人がいる。家族と語らするころ孤独に耐える人がいる。今年のクリスマス礼拝ではアフガン支援献金を募ります。隣り人の痛みを自わがい祭り、平和な 世紀はほど遠い。　（雅）

発　行：東京中央教会コミュニケーション部　　＊発行人：板東洋三郎
［住所］〒150-0001 渋谷区神宮前1-11-1　☎03-3402-1517
＊編集人：前中靖司　　＊スタッフ：佐藤敏子・寺内雅子・平山茂子・森武洋子・山口保夫